

【熊本県教育委員会賞】

無意味ではない生き方を

大津町立美咲野小学校 6年 大塚 栞

「あきらめることは無意味だ」を読んで、そうではないというのが私の感想です。題名にも用いられている「無意味」を調べると、「意味のないこと」と書いてあります。私はあきらめることが意味のないことだとは思いません。これまで私は、自分の目標や夢をあきらめるべきなのかと葛藤したことはありません。しかし、スポーツ選手など、ひとつの怪我でこれまで何年も何年も続けてきたことが、できない、あきらめなくてはいけないという経験をする人たちが必ずいるはずです。その人たちにこの言葉は、きっと違う聞こえ方をするのではないのでしょうか。

作者である蟻田功さんは、戦争があっている地域でも医療活動が必要であることを伝えようとする強い意志をもち、その姿に心を動かされたなかまの方々と「あきらめたら負けだ」と気持ちを一つに活動されました。何度もくじけそうになりますが、その度に立ちあがり、住人やゲリラのワクチン接種への同意に辿り着きます。多くの方々の命を救い、未来を創られた尊敬すべき人です。

ですが、もしなかまが戦争に巻き込まれて命を失っていたり、ワクチンを拒まれさらなる歪みができてしまったりしていたら、功さんのあきらめないという思いは、また別のものとして考えられていたのではないのでしょうか。そう考えると、あきらめなかつただけでなく、自分の目標や夢を達成できたという結果がともなっこそ、言える言葉ではないかと私は思います。

そう考える私が、功さんの生き方から学ぶことがあります。それは、功さんとなかまの志の高さです。自分たちが命を落とすかもしれないという状況で、名前も知らない誰かのために行動し続けたことがとても素敵なおことだと思います。そして「あきらめたくない」という目標や夢をもっている人は、こんなにも強いのだと知ることができました。何度くじけても、道が途絶えても、また前を向いて歩み始める強い姿に、私も自分が懸命に挑戦できるものを見つけたいと思うことができました。

私は、たとえ功さんの目標や夢が実現しなかったとしても、途中で活動をあきらめることになったとしても、意味がなかったとは思いません。それまでに関わってきたたくさんの人たちの思いや、絶えず積み上げてきた努力があるからです。なにより私のように、読んだ人の心を動かすことができるからです。

私は「あきらめることは無意味だ」とは思いません。そして、もしいつか目標や夢をあきらめることになっても、無意味ではなかったと思える生き方をしたいです。